

資源評価調査委託事業

スルメイカ漁場一斉調査

清藤 真樹

目 的

太平洋海域におけるイカ類資源の合理的利用、イカ類漁業の操業の効率化と経営安定に寄与するため、スルメイカの漁況予報に必要な分布・回遊、成長・成熟および海洋環境などに関する資料を収集する。

材料と方法

本調査は、宮城県沖から北海道沖の太平洋海域において、北海道、青森県、岩手県、宮城県及び北海道区水産研究所が担当海域を持ち、6月と9月を目処に一斉に調査を行い、その結果を北海道区水産研究所が取りまとめ、漁況予報等に活用している。

1 第1次調査

①期 間：平成24年6月7日から6月12日（試験船・開運丸）

②調査項目：海洋観測（35地点、CTDによる水温、塩分測定）

漁獲調査（14地点、自動イカ釣り機（2連式3～5台）による釣獲試験。種別の尾数、外套長の測定）

2 第2次調査

①期 間：平成24年8月30日から9月1日（試験船・開運丸）

②調査項目：海洋観測（32地点、CTDによる水温、塩分測定）

漁獲調査（8地点、自動イカ釣り機（2連式4～5台）による釣獲試験。種別の尾数、外套長の測定）

結 果

1 第1次調査

海洋観測結果は、津軽暖流域の最高水温は0m層、50m層、100m層でやや低め、津軽暖流の水塊深度はやや浅め、尻屋崎東方への張り出しはやや弱めとなっていた。

漁獲調査結果は、14地点すべてでイカ類の漁獲はなかった（図1）。

2 第2次調査

海洋観測結果は、津軽暖流域の最高水温は0m層ではなはだ高め、50m層は平年並み、100m層はやや高めとなっていた。津軽暖流の水塊深度はやや深め、尻屋崎東方への張り出しは平年並みであった。

漁獲調査結果は、8地点すべてでイカ類の漁獲があった。8地点中3地点でスルメイカ、7地点でアカイカが漁獲された。スルメイカの有漁率は37.5%、アカイカの有漁率は87.5%であった。漁獲されたスルメイカの外套長は17cmから31cmで、各地点当たりの漁獲尾数は3尾から184尾、1台（2ライン）・1時間当たりのCPUEは0.25から23.00であった。また、漁獲されたアカイカの外套長は16cmから33cmで、各地点当たりの漁獲尾数は1尾から164尾、1台（2ライン）・1時間当たりのCPUEは0.08から13.12であった（図2、3）。

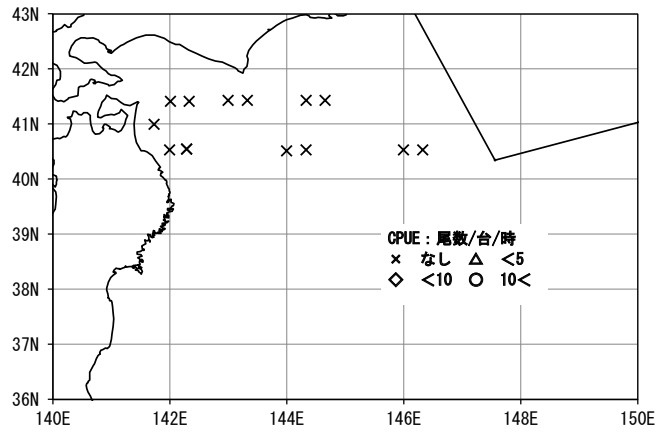


図1 6月調査結果 (スルメイカ)

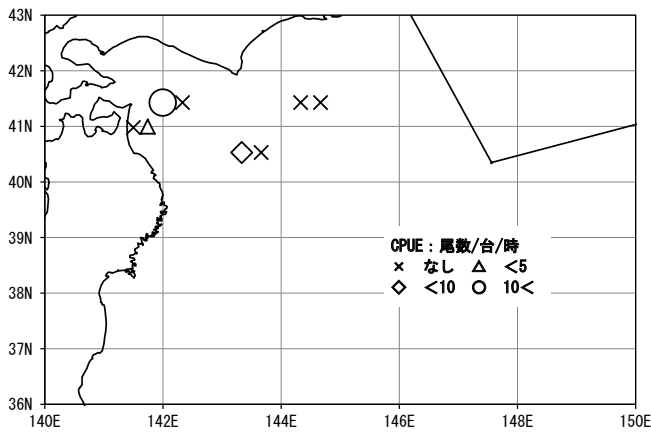


図2 9月調査結果 (スルメイカ)

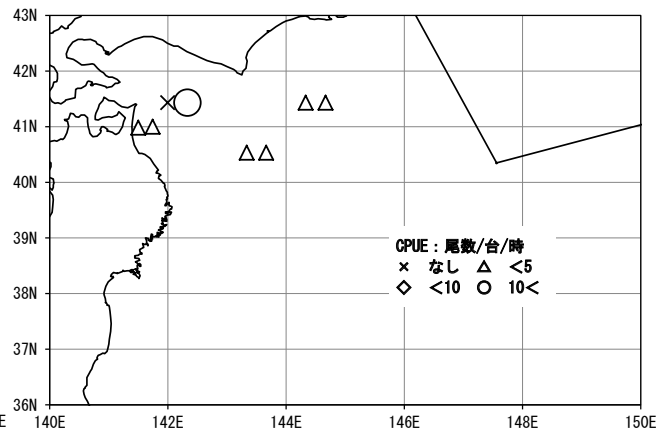


図3 9月調査結果 (アカイカ)